

特集：外国人の日本語学習を支援～小平日本語ボランティアの会・小川西町

小平市は外国人が6,000人以上住んでいて年々増加しています。外国人の日常生活に必要な日本語学習の支援をボランティアで行っている「小平日本語ボランティアの会・小川西町」の活動の様子を紹介します。

■活動状況

小平日本語ボランティアの会・小川西町は外国の学生や社会人が自立した日常生活ができるように、日本語の学習を支援しています。小川西町公民館で毎週水曜日の夜に日本語教室を開催しています。日本人の支援者は大学生や高校生も参加しています。

学習者のニーズに合わせてマンツーマンで日本語を教えながら、日本の社会や習慣など生活に必要な知識を伝えています。また、七夕やクリスマスなど季節の行事を通して、お互いの文化や生活習慣について共に学んでいます。

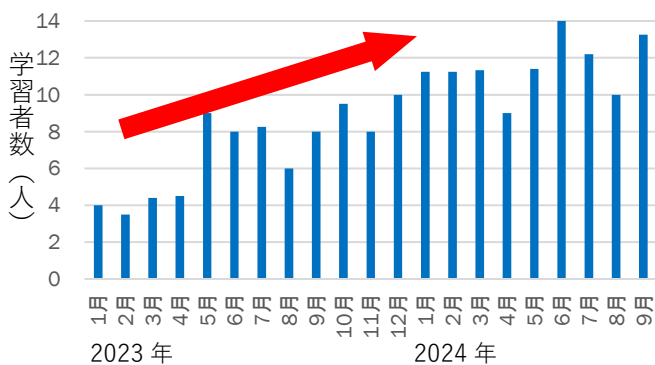
ホームページ <https://knvg.sakura.ne.jp/o/>



日本語学習支援のボランティア活動

■学習者数の推移

日本語教室ではコロナ禍の後、学習者が増加して、最近では毎回12～16人の学習者が参加しています。



学習者数の推移（月別平均）

出身国は中国、タイ、ベトナム、フィリピン、ネパール、インド、スリランカ、カナダ、フランス、ドイツです。夜間の日本語教室なので大学の留学生や技能実習生など働いている人が多いです。

■日本語の難しさ

外国人にとって漢字を読んだり書いたりするのは、とても難しいです。日常生活で使用する常用漢字は

2,136字あります。小学校で習う漢字だけでも1,026字です。同じ漢字でも訓読み、音読みが複数あって大変です。また、日付の言い方「ついたち」「ふつか」「みっか」や敬語の「お名前」「ご氏名」のように「お」と「ご」の使い分けも難しいです。

今、やさしい日本語は外国人と日本人との共通言語として普及しています。NHKに「[やさしい日本語](#)」の会話教材があります。また、「[NEWS WEB EASY](#)」はやさしい日本語で書かれた時事ニュースです。

■日本語学習の成果発表

毎年10月に小川西町公民館まつりで日本語スピーチがあり、日本語の難しさ、日本での生活、母国の紹介などについて発表しています。地域の皆さんに活動を知っていただく機会になっています。

また、毎年12月に小平市と国際交流協会(KIFA)が主催して日本語発表会が開催されます。外国人が日本での生活で感じたことや体験したことなど日頃の日本語学習の成果を発表します。

■多文化共生社会へ

日本語教室でもタイやベトナムから技能実習生が増えています。技能実習制度は日本で技術を習得して母国の産業発展に貢献するという国際貢献が目的です。日本の技能実習生は約40万人いますが、日本の労働力不足により、新たに育成就労制度を設けて人材の育成を図ろうとしています。

最近では外国からの労働者も増えて、学校や職場など日常生活で外国人と接する機会が増えています。そこで、必要になるのが多文化共生の考え方です。多文化共生は総務省より次のように説明されています。「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」

日本人も外国人も、お互いの文化や習慣を尊重しながら、同じ地域の一員として、社会を発展させていくことが必要になっています。外国人との多文化共生のためには、お互いの信頼関係が大切です。そのためにコミュニケーションが必要ですが、言葉の壁があります。日本語教室は外国人への日本語学習支援を通して多文化共生社会に貢献しています。

(文責:佐藤)